

島前合宿レポート

2015年8月22日～26日

一章 はじめに

私が今回島前合宿の参加を希望したきっかけは、「面白そう」「さまざまな地域に行ってみたい」という単純な気持ちで参加をしました。その中でも、合宿に行くからには、何か一つでも自分自身プラスになるものを見つけようという気持ちを抱いて臨みました。実際に全日程を得て多くの事を学び、感じる事が出来ました。それには、合宿の運営に携わってくれた方々、島の人たちのサポートがあり、それが出来たと思っています。本当にありがとうございました。

二章 各企画の反省・感想

私たちはこの島前合宿の中で大きく三つの企画を行いました。一つ目は、島前高校「ヒトツナギ部」の方たちとの交流会です。グループになっての話し合いの中で、高校生の話の中から多くの事を考えさせられました。部の内容面では、スタッフ、地域住民、学校の間を保つことが難しく、島民の中には、ヒトツナギの活動に消極的な人も多かったです。私はヒトツナギという名前を聞いて島の為に良い活動をしていると思っていました。恐らくその活動の概要のみを聞けば、多くの方が自分と同じ考えを持つことだと思います。しかし実際には、生徒の中の意見では、「地域の人と信頼関係を上手く築けない」といった意見や、「島に来たばかりで島内の状況を把握しきれていない」という意見を語ってくれました。それもそのはず、現在の島前高校ヒトツナギ部の部員は全員が島外出身者であり、一年生に関しては、来て半年も経過していません。恐らく、一部の島の人からすると、島に来て間もない高校生が行う活動だからといった思いがあるのだと思います。しかし今回、話し合いをした高校生と同じく島外やってきた自分たちの意見は、島にいないからこそ見える島の良さがあるという考えでした。その意見は高校生とも共有ができました。島内出身者の活動が気薄という意見に対しては、学校単位の規模での活動を推進していくという結論に至ったものの、詳しい活動内容に関しては話し合う事が出来ませんでした。後に自分自身考えてみると、多くの方がいる学校などの規模では、まとまりを持って行動することは難しいと思います。その為後に記述するが、キンチャモニャ祭りの運営のように何か自分たちで地域に向けて企画を提示するのはどうかと思いました。交流の中全体での反省は、自分たち大学生が高校を話し合いの中で引っ張っていけなかったということです。充実した意見も数多く出ましたが、それ以上に沈黙する時間を多く、高校生が意見を出しにくいと思いました。多くの方の意見を引き出せる訓練を今後は日頃から意識してい

きたいです。また話し合いのタイムスケジュールなどを細かく決めるなど工夫を増やす努力を日頃の授業内の討論などで意識していきたいです。

二つ目は、西ノ島中学校の生徒との交流です。出前授業というものをする中で中学生とペアを組み話し合いを行いました。高校生と話し合いをした時の反省を生かして、この企画では、積極的に発言をして中学生を引っ張っていこうという気持ちで臨みました。実際に話し合いをしてみると、ライフストーリーチャートやジョハリの窓を作成する際、本音で語り合えたと思います。授業を通じて、主観的に自分を見つめることが出来て良かったです。また、今回話しをしたのは、島に住んでいる中学生です。授業の内容以外で島についての話しや、普段の生活に関しての事など中学生から自分の知らない多くの事を教えてもらいました。また中学生から見た島はどのようなものか、お互いの将来についても話し合う事が出来ました。話が弾み時間の経過がとても早く感じました。本当に充実した時間でした。

三つ目は、大学生（インターン生）との交流会です話し合いの内容は、島前に来て良いと思ったこと、やってみたいことや、学生が地域にもたらす役割などです。班の中で意見を出し合い発表をしていきました。私たちは話し合いの中で学生の変化、地域の変化という二つの視点から学生と地域の在り方について考えてみました。そこで以外にも学生が行動することで、地域のメリットが多く生まれることに気が付きました。学生が活動することによって地域住民を交え相乗効果で地域が活性化されることや、学生が行った活動を地域の人々が続けていくきっかけになるなどといった意見が挙げられました。また SNS の利用者が多い学生は、情報を容易に拡散することが出来る為、影響力が大きいという意見も挙げられました。一方学生のメリットは多くは考えることが出来ませんでした。しかし一つ一つに重みを感じる意見は考えることが出来ました。一つ目は交流関係が広がるということです。地域づくりとは少し話しが逸れてしまうかもしれませんが、自分と似ている考えを持つ人が集まる機会は、あまりありません。一人では達成出来ないことが、多くの人が集まると出来るようになると強く感じました。二つ目は、発言の場が生まれるということです。普段の大学の授業内で思ったこと、感じたことがあっても自分の意見を発言する機会はあまりありません。考え感じたことを発言する事が出来た今回の合宿は自分自身の考えを深めていく事が出来ました。そして大学生の話し合いの中で一番自分の中で衝撃的だったことは、松岡さん（相手の大学生の方）、近藤さんの話しを聞いたことです。自分より年上で、かつ地域づくりについて自分より深く考えている二人から共通して出てきた言葉は、「変化がない」ということです。メリットを見つけていくことの難しさ、行動したくても行政が絡むと連携が上手くいかないといった意見を聞かせていただきました。学生が活動をすれ

ば少なからず変化を起こせるだろうと自分の考えの甘さに気が付きました。しかし変化は限りなく0とおっしゃっていましたが、私は違うと思います。確かに地域という大きな枠で見ると変化をもたらすのは難しいと思います。しかし私が地域を相手にする際に一番大事にしたいのは、住民の方々が何を感じているのかを把握し、幸せになってくださる事だと思います。私が感じるところで、住民の多くの方は、常に笑顔でいてくれました。それは少なからず学生が地域に入ってきたことが嬉しいからだと思います。地域を変えることは出来ませんが、住民一人一人の気持ちは変える事が出来ると私は合宿を通じて学ぶこと、感じる事が出来ました。

三章 企画以外の感想等

今回の島前合宿、二章で述べた企画以外にも多くの経験をしました。一日目は、島の伝統でもある、「キンニャモニャ」祭りに参加をしました。島の伝統行事に参加をする事ができ、とても充実しました。踊りは大変でした。また3日目には西ノ島の観光を行いました。島は広く全て回れなかったのは残念でしたが、都会では味わえないスポットが沢山あり、とても充実しました。また私たちの班は徒歩で観光をしました。その際島民の方々と接する機会が多くあり、その度に島の方々の温かみを感じました。補足ですが私は貝類が唯一苦手な食べ物でしたが、島前で食べた貝はとても美味しく味覚が変わりました。バーベキューを企画してくださり本当にありがとうございます。

四章 全体を通しての感想

五泊六日の島前合宿、私の中でとても大きな財産となりました。その中で一番大きい部分は、自分自身の無力さに良い意味で気が付いたことです。正直不謹慎ですが、地域づくりは簡単に出来るものだと思っていました。しかし実際に現場に入り、多くの人の意見を聞いたことによって、容易ではない。課題も沢山ある。もっと言えば課題すらも見つけられない実状を知りました。しかし中々解決しないからと、手放しにしておいてはいけません。私たちは微力だが無力ではないという言葉の通り、その地域が抱えている問題と向き合い解決していく小さな努力が必要です。またこの合宿だけで地域の問題について考えるのでは、意味がありません。今後もこの問題について自分自身考え続けていきたいです。そして一年後成長した姿でもう一度戻ってきたいです。ありがとうございました。